

「平成30年7月豪雨」における Lアラートへの発信状況について

平成30年7月24日

(一財)マルチメディア振興センター

Lアラートへの発信件数及び発信団体について

○災害状況について

6月29日に発生した台風第7号が北上して梅雨前線に影響を与え、その後も梅雨前線の活動が例年より活発になり、西日本を中心に記録的な大雨となり、河川が氾濫、がけ崩れが発生するなど各地で甚大な被害が発生した。自治体からは台風7号関連の発信に続き、豪雨による避難情報の発信が7月4日から始まっている。

○豪雨関連の情報発信件数(7月4日～7月9日)

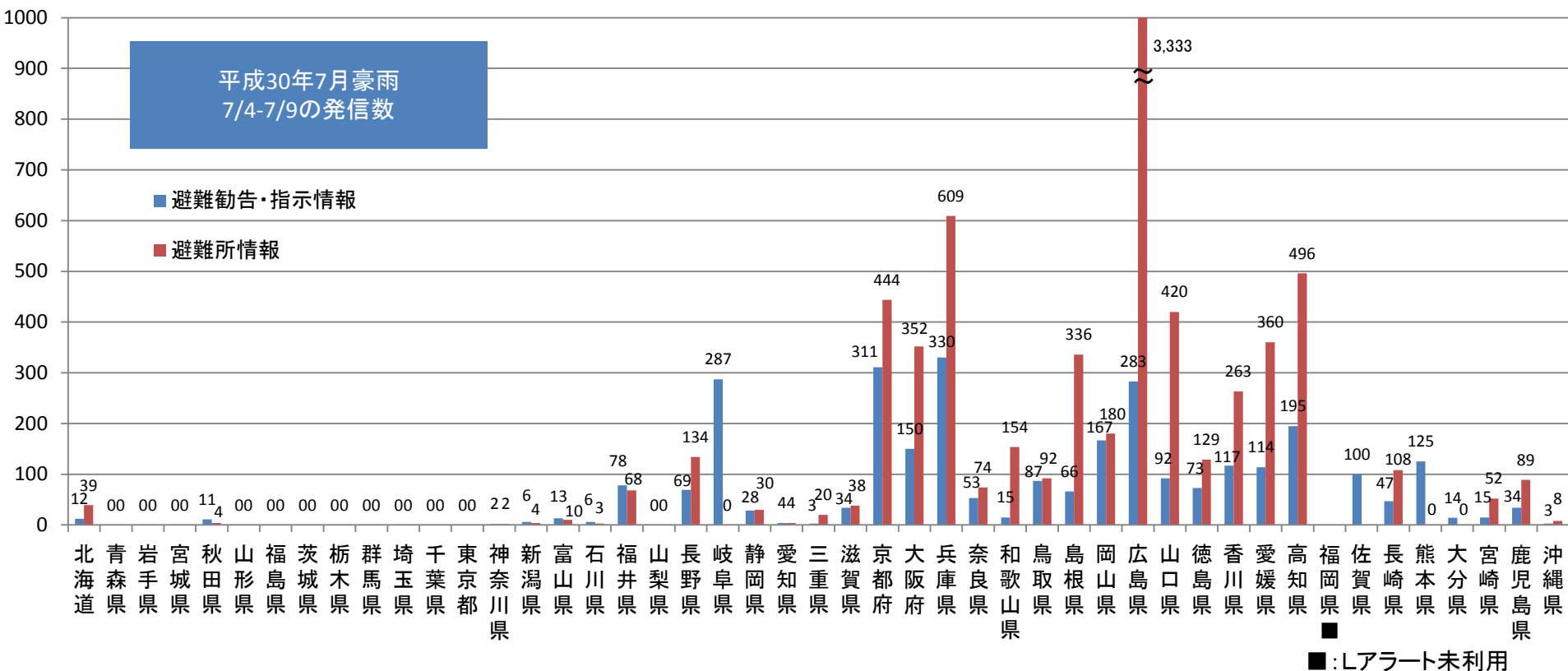
情報発信件数合計：15,227件(避難勧告・指示：3,004件、避難所情報：7,855件、お知らせ 1,549件等)

○情報発信を行った団体数 549団体

地方公共団体：542団体(34道府県)

ライフライン事業者：5社(西日本電信電話、携帯電話会社：3社、沖縄旅客船協会)

国土交通省 2組織 関東地方整備局、北陸地方整備局



➤ Lアラートの稼働状況について

7月4日から9日までの6日間に、15,227件の情報発信がありました。Lアラートを構成する設備（サーバやNW機器等）に、障害等の発生もなく、正常に処理しています。

（参考）全国合同訓練時の発信件数：20,663件/2日間

➤ 自治体からの避難情報の入力時間について

Lアラートに発信された情報の内、住民の避難行動につながる「避難情報（特に初報480件）」は、発令から約30分以内に約70%（336件）が発信されています。

（参考）平成29年度の発令から30分以内発信率：71%